

グローバル化時代におけるハラールの意味¹⁾ (Meaning of Halal in Globalized Era)

ディン・シャムスディン教授²⁾

Prof.Dr.M.Din Syamsuddin

翻訳：大 形 里 美



写真：シンポジウム（Zoom開催）で講演中のディン・シャムスディン教授

ディン・シャムスディン教授による基調講演

私は皆さんにいくつかの考えをお伝えしたいと思います。

「日本のハラール基準」をテーマにしたこのウェビナーの実施を歓迎し、高く評価します。

アルハムドゥリッラー（アッラーに賞賛あれ）、ハラールは、イスラム教徒が多数派を占める国々だけでなく、日本を含む他の国々においても、今や世界的なトレンド、グローバルなライフスタイルになっています。2014年に東京で開催された日本ハラールサミットは、日本におけるハラールの発展にとって

重要なマイルストーン（一里塚）でした。これに関連して、インドネシアで流通する何百もの日本製品に対してハラール認証が行われ、これらの製品がインドネシアでますます好まれ消費されるようになりました。

ハララン・トイバン（Halalan-Thoyyiban：ハラールで良いもの）とは確かにクルアーンで言及されているイスラム教の教えです。つまり、人間はハラールで良いもの（Halalan-Thoyyiban）だけを消費すべきであるということですが、この教えは実際には普遍的な教えです。目指すところは、人間が善と公益、または現在でいうところの人間の幸福として知られているものを手に入れる、ただそれだけだからです。

哲学的には、ハラールとは解決策、つまり間違った食べ物や飲み物の摂取によって人間が直面するさまざまな問題の解決策を意味します。この場合、イスラム教の教えは、食べ物/飲み物が単なる身体のためだけでなく、精神のためでもあることを意味します。食べ物は体だけのためではなく、食べ物は思考と魂のためでもあります。

ハラムの概念も同様です。それは禁止を意味しますが、ハラムという言葉は人間の自己尊厳を意味する「フルマ」という言葉と関連しています。したがって、ハラムではないハラールの食べ物や飲み物を消費することは、身体的、精神的に人間の利益のための解決策になり、そうしたことは人間の自尊心を維持します。

ハラムの飲食物は実際にはそれほど多くありません。ハラールのものの方がはるかに多いです。クルアーンでは、腐った肉、血、豚肉、創造主の名の下ではなく（または野蛮な方法で）と屠されたもの、そしてハムル（酒）、つまり酩酊させるアルコール飲料など、ほんのわずかしかが言及されていません。

ハラムのもの（禁止されているもの）は明確で確固としています。ハラールのもの（合法とされているもの）も同様です。ただし、食品工学から生じる複雑な食品/飲料製品のハラールとハラムを決定するには、科学のおよび技術的支援が必要です。それにより、ハラールの食べ物/飲み物を容易に知り、消費

することができます。これにより、たとえば日本に来るイスラム教徒の消費者は、彼らのために安全で快適なメニューを簡単に選択できます。

日本、アメリカ、ヨーロッパなどの非イスラム諸国では、独自のハラール基準が必要です。この基準は依然としてイスラム教によるハラールの基準を参照しますが、当然のことながら原則と矛盾しない限り、国内の状況に合わせて調整することができます。イスラム教は実際には合理的で柔軟な宗教であり、容易にするもので困難にすることはありません。しかし、イスラム教徒の消費者は多様であるため、ハラールの飲食物を厳格に消費したいという人もいれば、状況を緊急事態だと考える人もいます（※訳者注：緊急事態においては、ハラムのものも食べてよいとする教えがイスラム教義にある）。

このような状況において、イスラム教徒の消費者に一番良いサービスを提供できるようにするには、飲食店経営者の方々の知恵が求められます。ましてや今、世界中の何百万人ものイスラム教徒が、美味しい日本食/飲み物を好むようになっているので尚更です。

日本のハラール基準の決定がすべての関係者に善と利益をもたらすことができれば幸いです。

Keynote Speech by Prof. Dr.Din Syamsuddin

Saya menyambut baik dan memberi penghargaan tinggi atas pelaksanaan webinar ini yang mengambil tema “Standart Halal Jepang”.

Alhamdulillah, halal sekarang ini telah menjadi global trend dan global life style, tidak hanya di negara-negara mayoritas Islam tapi juga negara-negara lain termasuk Jepang. Penyelenggaraan Japan Halal Summit di Tokyo pada 2014 merupakan milestone penting bagi perkembangan Halal Jepang. Dalam kaitan ini, sertifikasi halal bagi ratusan produk Jepang di Indonesia menjadikan produk-produk tersebut semakin digemari utk dikonsumsi di Indonesia.

Halalan-Thoyyiban memang merupakan ajaran Islam yang disebut dalam Al-Qur'an, yakni agar manusia hanya mengonsumsi yang halalan-thoyyiban, tapi ajaran ini sebenarnya merupakan ajaran yang bersifat universal. Tujuannya semata-mata agar manusia memperoleh kebaikan dan kemaslahatan atau apa yang disebut sekarang sebagai human wellbeing.

Secara filosofis, halal mengandung arti solusi, yaitu solusi terhadap aneka permasalahan yang dihadapi manusia akibat konsumsi makanan-minuman yang salah. Dalam hal ini ajaran Islam mengandung makna bahwa makanan/minuman bukan utk jasmani belaka tapi untuk kepentingan rohani. Food is not for body only, but food is for thought and soul.

Begitu pula konsep haram. Memang berarti larangan, tapi kata haram berhubungan dengan kata "hurmah" yang berarti kehormatan diri (human self-dignity). Maka, mengonsumsi makanan-minuman halal bukan yang haram akan menjadi solusi bagi kebaikan manusia secara jasmani dan rohani, dan hal demikian kemudian akan menegakkan kehormatan diri manusia.

Makanan-minuman haram sebenarnya tidak banyak, jauh lebih banyak yang halal. Dalam al-Qur'an hanya disebut beberapa yaitu: bangkai, darah, daging babi, dan yang tidak disembelih dengan nama Pencipta (atau tidak secara beradab), serta khamar atau minuman yang beralkohol yang memabukkan.

Yang haram itu jelas dan tegas. Demikian pula yang halal. Namun utk menentukan kehalalan dan keharaman terhadap produk-produk makanan/minuman yang rumit hasil rekayasa pangan perlu bantuan ilmu pengetahuan dan teknologi. Oleh karena itu makanan/minuman halal mudah diketahui dan dikonsumsi. Hal ini memudahkan konsumen Muslim yang datang ke Jepang, umpamanya, dalam memilih menu yang aman dan nyaman bagi mereka.

Di negara bukan mayoritas Muslim seperti Jepang, Amerika, atau Eropa memang memerlukan standard halal tersendiri. Standard itu tetap mengacu kepada kriteria

kehalalan menurut Islam, namun dapat disesuaikan dengan kondisi domestik tentu selama tidak bertentangan dengan prinsip. Islam sebenarnya agama rasional dan fleksibel, memudahkan tidak menyusahkan. Namun karena, konsumen Muslim beragam, ada yang ingin mengkonsumsi makanan/minuman halal secara ketat, dan ada juga yang menilai kondisi bersifat darurat.

Dalam keadaan demikian dituntut kearifan pengusaha restoran utk dapat melayani konsumen Muslim mereka dengan pelayanan terbaik. Apalagi sekarang ini jutaan Muslim di dunia mulai menggemari makanan/minuman Jepang yang memang lezat dan nikmat.

Semoga penentuan standart halal Jepang dapat membawa kebaikan dan kemaslahatan bagi semua pihak.

ディン・シャムスディン教授のプロフィール

ディン・シャムスディン教授は、1958年インドネシア、スンバワ島生まれで、国立イスラム大学で神学と哲学を学ばれた後、アメリカのカリフォルニア大学でイスラム学の修士号と博士号を取得された。帰国後は、宗教間・文明間の対話のためにインドネシア国内の組織だけでなく、数多くの国際組織においても指導者として幅広く活躍を続けられている。

ディン教授は2000年からはインドネシア最大の近代派イスラム組織「ムハマディヤー（Muhammadiyah）」の議長として、そして2007年から現在まで「文明間の対話と協力センター（Centre for Dialogue and Cooperation among Civilization）」の議長、2010年から現在まで「インドネシアの宗教間評議会（Inter-Religious Council Indonesia）」最高会議幹部、2000年からムハマディヤーの副議長を5年間、同議長を10年間、2000年から2015年まで「インドネシア・ウラマー評議会（MUI）」の事務局長、副議長、議長を歴任され、2015年から2020年まではMUIの諮問評議会議長、そして「インドネシア地球を救う運動 Indonesia's Movement to Save Earth（Indonesia Bergerak Menyelamatkan Bumi/

Siaga Bumi)」の運営委員会議長、2016年からは「偉大なるインドネシア運動（Movement for Great Indonesia（Pergerakan Indonesia Maju/PIM）」の議長などを務められている。

国際的にも、各国の宗教界関係者や有識者、政治家などを招き、2006年からは「世界平和フォーラム（World Peace Forum）」を2年に一度開催され、同じく2006年から国連本部に事務所を置く「世界宗教者平和会議（World Conference of Religions for Peace）」の最高仲裁者（President Moderator）を、さらに2007年からは日本に本部を置く「アジア宗教者平和会議（Asian Conference of Religions for Peace）」の共同議長（Co-President）などを現在まで務められている。

さらにディン教授は、日本とインドネシアのイスラム社会との相互理解促進に尽力してこられ、インドネシア・ウラマー評議会（MUI）議長を務められた経験などから、日本におけるハラール食品普及やイスラム諸国からの観光客の受け入れ体制の整備にも貢献してこられた。これらのことが高く評価され、2018年秋には日本政府から旭日重綬章を授与されている。その他、ヨルダン政府、イタリア政府、タイ政府、アラブ首長国連邦の政府などからもさまざまな賞を受賞されている。

2016年には、郷里であるスンバワ島にイスラム寄宿学校「デア・マレラ国際モダン寄宿学校（Pesantren Modern Internasional Dea Malela : <https://deamalelamiibs.id/>）」を建設され、グローバル時代の未来を担う若者たちの教育にも注力されている。ディン教授のイスラム寄宿学校は、インドネシア政府のカリキュラムを採用した普通学校であるが、イスラム学をカリキュラムに加え、寮においては英語・アラビア語の使用が義務付けられている。海外からの留学生も多く、ディン教授は、日本からも若者が同学校に学びに来てくれることを心待ちにして下さっている。（日本から夏期のインターンシップの受け入れもして下さるとのことなので、もしご興味がある方は ohgata@cb.kiu.ac.jp までご連絡いただければ、お取り次ぎをさせていただきます。）

(注)

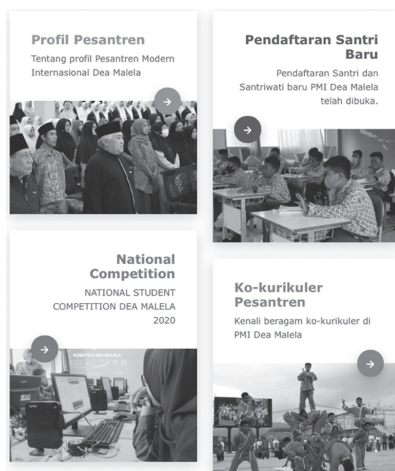
- 1) 本原稿は、2021年10月30日(土) オンライン開催されたハラール対応に関する第3回公開シンポジウム「グローバル化時代におけるハラール産業～日本の国内向けハラール・サービスの現状とこれから～」の基調講演者としてディン・シャムスディン教授にお話しいただいた際のスピーチ原稿の翻訳とインドネシア語の原文である。(主催：北九州ムスリムフレンドリー推進プロジェクト実行委員会、後援：在日インドネシア共和国大使館、北九州観光コンベンション協会、九州・インドネシア友好協会)

This is a record of the Keynote speech by Prof.Din Syamsuddin in a Symposium “Halal industry in the age of globalization~ Current status and future of halal services for domestic use in Japan ~”, held by Kitakyushu Muslim Friendship Promotion Project Executive Committee, with nominal sponsorship from the Embassy of the Republic of Indonesia in Japan, Kitakyushu Convention & Visitors Association, and Kyushu-Indonesia Yuko Kyokai.

- 2) ディン・シャムスディン教授は、インドネシア国立イスラム大学の教授で、インドネシア最大の近代派イスラム組織の議長、そしてインドネシア・ウラマー評議会の議長などとしてインドネシア国内で活躍されてこられただけでなく、国際的な場においても宗教間・文明間の対話を促進し、平和を構築する運動の指導者として活躍してこられた方である。同教授のプロフィールを本稿の末尾に紹介しておく。



写真：インドネシア、スンバワ島にディン・シャムスディン教授が設立されたイスラム寄宿学校の奨学生募集パンフレット



「デア・マレラ国際モダン近代寄宿学校」の生徒たちの活動の様子(出典：「デア・マレラ国際モダン寄宿学校」のウェブサイト<https://deamalelamiibs.id/>より。)

